熊本県におけるクレチン症マス・スクリーニングの現状とスクリーニング時のTSH疑陽性（50 μU/ml 以下しかし3パーセンタイル以上）を示した児の分析

熊本大学医学部小児科　松田　一郎
藤本　茂紘

はじめに

大分，佐賀を除いた九州，沖縄地区では化血研にて乾燥濾紙血中のTSHを測定することによりマス・スクリーニングが行われている。54年10月より58年1月までに総数560,445名の新生児がスクリーニングをうけ163名（3,438名に1名の割合）が陽性であった。また前年度でも述べたごとく地域的な発生頻度差がみられるが，163名の確定診断は不明な点が多い。そこで私達は熊本県で発見された18名について分析したので報告する。

対象ならびに成績

濾紙血中のTSH値が50 μU/ml 以上を陽性（狭義），50 μU/ml 以下，しかし3パーセンタイル以上を疑陽性と便宜上区別しているが，地域的な発生頻度差がみられることについて，スクリーニング終了後の濾紙血中の抗甲状腺マイクロソーム抗体を検討してみた。熊本180/4,204（4.28%），宮崎12/384（3.13%），鹿児島43/765（5.62%），沖縄10/299（3.34%）と地域差を認めたが，クレチン症陽性率との間には地域的な関連はみられなかった（表1）。

次に熊本県では18名が陽性を示したが，狭義の陽性者は9名であり，この内訳はクレチン症6名，一過性甲状腺機能低下症（疑いも含）3名であった。次に疑陽性者9名の内訳はクレチン症（疑いも含む）2名，一過性高TSH血症3名，正常（ダウン症を含む）4名であった。この2名のクレチン症のうち1名は未熟児であったが，他の1名は臨床症状はなく，FDCや甲状腺シンチも正常で，血清TSHの軽度上昇以下はT_3，T_4も正常であったため，一過性高TSH血症として経過観察されていたが，生後9カ月へても，また一時的なT_4投与に対しても改善ないため軽症のクレチン症かと考えている（図1）。

まとめ

1）九州地区では58年1月までに560,445名のうち163名（陽性92名，疑陽性71名）が陽性を示した。

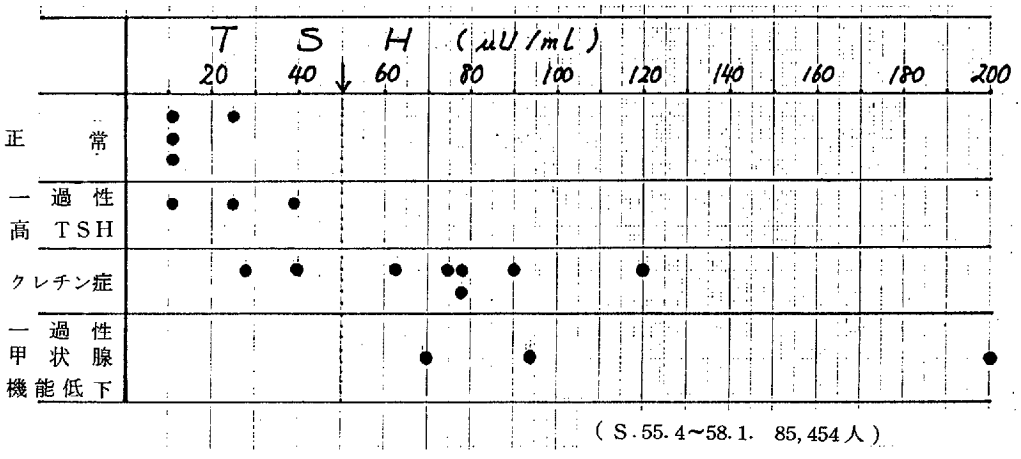
2）地域差がみられるが熊本，宮崎，鹿児島，沖縄における新生児乾燥濾紙血中の抗甲状腺マイクロソーム抗体陽性率は4.28%，3.13%，5.62%，3.34%であった。

3）熊本県で発見された18名のうち，8名がクレチン症，3名が一過性甲状腺機能低下症，3名が一過性高TSH血症，4名が正常（ダウン症を含む）であった。このうち未熟児や極く軽度のクレチン症はスクリーニング時のTSH値は低値を示す可能性が多いため留意する必要がある。

表1

	熊　本	宮　崎	鹿児島	沖　縄
クレチン・スクリーニング				
検　査　数	85,454	53,183	80,646	56,717
陽　性　数	9	6	20	14
	(1/9,401)	(1/8,864)	(1/4,032)	(1/4,051)
疑陽性数	9	5	10	13
	1/4747	1/4835	1/2688	1/2101
抗マイクロソーム抗体				
検　査　数	4,204	384	765	299
陽　性　数	180	12	43	10
%	4.28	3.13	5.62	3.34

図1　スクリーニング時TSH値と病型（熊本）



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

大分,佐賀を除いた九州,沖縄地区では化血研にて乾燥濾紙血中のTSHを測定することによりマス・スクリーニングが行われている。54年10月より58年1月までに総数560,445名の新生児がスクリーニングをうけ163名(3,438名に1名の割合)が陽性であった。また前年度でも述べたごとく地域的な発生頻度差がみられるが,163 名の確定診断は不明な点が多い。そこで私達は熊本県で発見された18名について分析したので報告する。